

新連載

めざせ Stand-Alone



専門技術力を発揮するためには、専門技術以外にも備えておきたい力があります。俗っぽくいうと、学校ではあまり教えていない「人間力」というものかも知れません。本連載では若い技術者の皆さんが「会社と社会」の仕組み、基本マネジメントなども理解しながら、活躍・成長していくために必要なことをお伝えしていきます。

日本のいま

● 日本の競争力と幸福度

2020年「世界競争力ランキング」を、スイスIMD(International Institute for Management

Development)が発表しました。それによると日本の総合順位は連続で後退し、34位でした。上位はシンガポール、デンマーク、スイス、オランダ、香港が続き、アメリカは10位、中国は20位です〔表1(a)〕。

日本が厳しい評価を受けたのは起業家精神、国際経験、企業の意思決定スピード、ビッグデータ活用などでした。技術革新やデジタル技術を重要視する世界経済フォーラム(WEF: World Economic Forum)によるランキング(2019年)では5位と健闘していますが、世界の中での日本のエレクトロニクス業界は厳しい状況が続いています。

幸福度についてみると2020年、国連の幸福度ランキングの首位は3年連続でフィンランド、IMD競争力ランキングでも上位にいる北欧の国々が幸福度でも上位に並び、日本は62位でした〔表1(b)〕。

幸福度は『一人当たりGDP(Gross Domestic Product; 国内総生産)』や『社会保障』、『健康寿命』など6つの視点でランクが決まりますが、日本は『寛容度』がとくに低く、低ランクの一因となりました。表1を見るとわかる通り、幸せランキングの高い国々は総じて競争力が高くなっています。欧州、とくに北欧ではっきりとその傾向がみられます。

● 日本の電子工業の低迷とスイッチング電源市場

厳しい状態が続く日本の電子工業の国内生産額は2000年の26兆円をピークに減少、2019年は11兆円となっています(図1)。高い世界シェアをもつコンデンサなどの電子部品は競争力を維持していますが、多くの分野で苦戦が続いています。

筆者の活動エリアであるスイッチング電源市場でも、2002年に1340億円あった国内生産は海外生産シフトが進んだこともあり、2019年には718億円とおおよそ半減しています。

汎用製品では中国、台湾メーカが量的主導権を握り、欧米メーカはICなど回路技術、集積化の強みを背景に圧倒的な小型化と新たな給電方式の提案で新市場を切り拓いています。日本メーカはというと、グローバ

表1⁽¹⁾ 国際的な競争力ランキングと幸福度ランキング

国名	(a) IMD 競争力順位	(b) 国連 幸福度順位
Singapore	1	31
Denmark	2	2
Switzerland	3	3
Netherlands	4	6
Hong Kong	5	78
Sweden	6	7
Norway	7	5
Canada	8	11
UAE	9	21
USA	10	18
Taiwan	11	25
Ireland	12	16
Finland	13	1
Qatar	14	-
Luxembourg	15	10
Austria	16	9
Germany	17	17
Australia	18	12
United Kingdom	19	13
China	20	94
Japan	34	62

出典：IMD World Competitiveness ranking 2020
World Happiness Report 2020